

平成30年度
特別養護老人ホーム 待機・入所状況調査報告書

2018年11月

静岡県老人福祉施設協議会
特養委員会

平成30年度特別養護老人ホームの待機・入所状況調査

1. 調査目的

毎年実施している特別養護老人ホームへの待機状況調査について、行政等との話し合いなど今後の対応の資料とするため、待機者の状況に加え、入所者の状況や特例入所の状況について調査を行う。

2. 調査概要

①方法

県老施協事務局より会員施設の全特養に調査票をFAXで依頼し、回答いただいた。

②調査期間

2018年7月13日から2018年7月31日

③調査担当

静岡県老人福祉施設協議会 特養委員会

3. 回答状況

対象施設：210施設

回答施設：194施設

回答率：92.4%

<内訳>

	全体	東部	中部		西部	
			静岡市内	静岡市外	浜松市内	浜松市外
回答施設数	194	66	34	22	38	34
従来型	85	32	12	12	16	13
ユニット型	85	27	16	9	17	16
混在	24	7	6	1	5	5

1. 施設の概要について

(1) 平成30年6月時点の入所者の平均要介護度

	全体	東部	中部		西部	
			静岡市内	静岡市外	浜松市内	浜松市外
全体	3.7	3.8	3.6	3.9	3.6	3.8
従来型	3.6	3.5	3.2	3.9	3.6	3.8
ユニット型	3.7	3.9	3.8	3.9	3.4	3.7
混合	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8

平成30年6月時点の平均介護度は3.7 ユニット型や混合と比較して従来型の介護度の方が低い。また、地区別では、静岡市及び浜松市の政令指定都市の平均介護度は若干ではあるが比較的低い。

(2) 直近3か月間（平成30年4月～6月の期間）に入所された新規入所者の平均要介護度

	全体	東部	中部		西部	
			静岡市内	静岡市外	浜松市内	浜松市外
全体	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7
従来型	3.6	3.7	3.2	3.8	3.6	3.5
ユニット型	3.5	3.4	3.8	3.4	3.6	3.5
混合	3.6	3.7	3.8	3.5	3.2	4.0

直近3か月間に入所された新規入所者の平均介護度の方が、平成30年6月時点における全体の平均要介護度（1）と比べ低くなっている。施設種別では特にユニット型や混合への新規入所者が低くなっている。

(3) 平成30年6月時点の平均稼働率

	全体	東部	中部		西部	
			静岡市内	静岡市外	浜松市内	浜松市外
全体	94.4%	95.9%	92.6%	96.5%	93.4%	93.4%
従来型	92.8%	95.9%	87.0%	95.3%	96.8%	88.9%
ユニット型	93.1%	94.6%	94.4%	94.8%	86.6%	94.9%
混合	97.2%	97.2%	96.4%	99.6%	96.6%	96.3%

平成30年6月時点の平均稼働率は94.4%

平均稼働率が90%を下回ったのは、静岡市内の従来型、浜松市内のユニット型及び浜松市外の従来型であった。また、西部地区においては、浜松市内ではユニット型の平均稼働率が低く、浜松市外では従来型が低い結果であった。

2. 昨年度1年間の入所者状況について

(1) 全体のまとめ

回答項目	施設数	比率
空き定員を満たすのに十分な待機者がいる	27	14%
空き定員を満たすだけの待機者は、概ね確保できている	103	53%
空き定員に対して、待機者の数は不足気味である	48	25%
空き定員に対して、待機者の数はまったく不足している	15	8%
合計	193	99%

※回答された194施設の内、当項目の未回答が1施設あったため100%にはなっていない

昨年度1年間の空き定員に対しての待機者状況について各施設に伺った結果、空き定員を満たすのに十分な待機者がいると回答された施設は27施設で全体の14%、また、待機者は概ね確保できていると回答された施設は103施設で全体の53%であった。待機者が十分いる又は確保できている施設は130施設で全体の67%であった。なお、最も多いのは「待機者は概ね確保できている」という状況であるが、浜松市内は「待機者の数は不足気味である」という状況が最も多かった。

一方、待機者の数は不足気味であると回答された施設は48施設で全体の25%、待機者の数は全く不足していると回答された施設は15施設で全体の8%で、待機者が不足気味である又は全く不足している施設は63施設あり全体の33%あった。

【東部地区】 待機者状況

回答項目	施設数	比率
十分な待機者がいる	9	14%
待機者は、概ね確保できている	44	67%
待機者の数は不足気味である	11	17%
待機者の数はまったく不足している	1	2%
合計	65	98%

【中部地区】 待機者状況

回答項目	静岡市内		静岡市外	
	施設数	比率	施設数	比率
十分な待機者がいる	3	9%	6	27%
待機者は、概ね確保できている	21	62%	11	50%
待機者の数は不足気味である	8	24%	4	18%
待機者の数はまったく不足している	2	6%	1	5%
合計	34	100%	22	100%

【西部地区】 待機者状況

回答項目	浜松市内		浜松市外	
	施設数	比率	施設数	比率
十分な待機者がいる	5	13%	4	12%
待機者は、概ね確保できている	11	29%	16	47%
待機者の数は不足気味である	16	42%	9	26%
待機者の数はまったく不足している	6	16%	5	15%
合計	38	100%	34	100%

(2) 地区・施設種別の内訳

①空き定員を満たすのに十分な待機者がいると回答された施設

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	27	14%	9	14%	3	9%	6	27%	5	13%	4	12%
従来型	18	21%	7	22%	1	8%	5	42%	3	19%	2	15%
ユニット型	6	7%	2	7%	2	13%	0	0%	1	6%	1	6%
混合	3	13%	0	0%	0	0%	1	100%	1	20%	1	20%

②空き定員を満たすだけの待機者は、概ね確保できていると回答された施設

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	103	53%	44	67%	21	62%	11	50%	11	29%	16	47%
従来型	47	55%	22	69%	7	58%	5	42%	5	31%	7	54%
ユニット型	45	53%	18	67%	9	56%	6	67%	4	24%	7	44%
混合	14	57%	4	57%	5	83%	0	0%	2	40%	2	40%

③空き定員に対して、待機者の数は不足気味であると回答された施設

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	48	25%	11	17%	8	24%	4	18%	16	42%	9	26%
従来型	20	24%	3	9%	4	33%	2	17%	8	50%	3	23%
ユニット型	22	26%	5	19%	4	25%	2	22%	6	35%	5	31%
混合	6	27%	3	43%	0	0%	0	0%	2	40%	1	20%

④空き定員に対して、待機者の数はまったく不足していると回答された施設

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	15	8%	1	2%	2	6%	1	5%	6	16%	5	15%
従来型	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	8%
ユニット型	12	14%	1	4%	1	6%	1	11%	6	35%	3	19%
混合	2	8%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%	1	20%

3. 昨年度1年間の待機者状況について

入所希望者の内、「すぐにでも入所したい」又は「6か月以内には入所したい」方について伺った。

(1) 全体のまとめ

回答項目	施設数	比率
入所希望者を長い期間待たせている状態である。	76	39%
入所希望者はそれほど待機せずに殆どの方が入所できている。	90	46%
入所希望者は殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できている。	24	12%
合計	190	98%

※回答された194施設の内、当項目の未回答が4施設あったため100%にはなっていない。

入所希望者の内、長い期間待たせている状態であると回答された施設は77施設で全体の40%であった。

一方、入所希望者はそれほど待機せずに殆どの方が入所できていると回答された施設は92施設で全体の47%、入所希望者は殆ど待機せずほぼ全員がすぐに入所できていると回答された施設は24施設で全体の12%であった。それほど待機せずに殆どの方が入所できている、又はすぐに入所できていると回答された施設は116施設あり全体の59%であった。

【東部地区】 入所希望者

回答項目	施設数	比率
長い期間待たせている状態である。	35	53%
それほど待機せずに殆どの方が入所できている。	27	41%
殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できている。	3	5%
合計	65	98%

【中部地区】 入所希望者

回答項目	静岡市内		静岡市外	
	施設数	比率	施設数	比率
長い期間待たせている状態である。	15	44%	10	45%
それほど待機せずに殆どの方が入所できている。	12	35%	9	41%
殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できている。	6	18%	1	5%
合計	33	97%	20	91%

【西部地区】 入所希望者

回答項目	浜松市内		浜松市外	
	施設数	比率	施設数	比率
長い期間待たせている状態である。	6	16%	10	29%
それほど待機せずに殆どの方が入所できている。	23	61%	19	56%
殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できている。	9	24%	5	15%
合計	38	100%	34	100%

(2) 「入所希望者を長い期間待たせている状態である」と回答された地域・施設種別の内訳

①施設数と比率

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	76	39%	35	53%	15	44%	10	45%	6	16%	10	29%
従来型	40	47%	18	56%	4	33%	8	67%	4	25%	5	38%
ユニット型	28	32%	14	52%	9	56%	1	11%	0	0%	3	19%
混合	10	43%	3	43%	2	33%	1	100%	2	40%	2	40%

入所希望者を長い期間待たせている状態であると回答された施設の種別では、従来型が比較的多い。

②最も長い待機期間と待機期間の平均

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
	最長	平均	最長	平均	最長	平均	最長	平均	最長	平均	最長	平均
全体	13年	5.3年	10年	4.2年	10年	5.2年	13年	9.2年	12年	4.4年	7年	3.3年
従来型	13年	6.1年	9年	4.3年	10年	8.3年	13年	7.7年	12年	6.8年	7年	3.3年
ユニット型	12年	3.8年	6年	2.7年	3年	2.4年	12年	12.0年	0年	0.0年	3年	1.7年
混合	10年	5.5年	10年	5.5年	5年	5年	8年	8.0年	8年	6.5年	4年	2.5年

入所希望者を長い期間待たせている状態であると回答された施設の平均待機期間は5.3年で、その内最も長い待機期間は13年であった。

また、従来型施設の方が比較的待機期間が長い。

（３）「入所希望者はそれほど待機せずに殆どの方が入所できている」と回答された地域・施設種別の内訳

①施設数と比率

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	90	46%	27	41%	12	35%	9	41%	23	61%	19	56%
従来型	41	49%	13	41%	6	50%	4	33%	11	69%	7	54%
ユニット型	36	43%	10	37%	3	19%	5	56%	9	53%	9	56%
混合	14	57%	4	57%	3	50%	0	0%	3	60%	3	60%

入所希望者はそれほど待機せずに殆どの方が入所できていると回答された施設の地域別では、浜松市内及び浜松市外が比較的多い。

②昨年度入所された方の平均待機期間

	全体		東部		中部		西部	
					静岡市内	静岡市外	浜松市内	浜松市外
全体	0年11ヶ月		0年9ヶ月		0年7ヶ月	1年7ヶ月	0年8ヶ月	1年0ヶ月
従来型	0年11ヶ月		0年9ヶ月		0年7ヶ月	1年3ヶ月	0年6ヶ月	1年2ヶ月
ユニット型	0年8ヶ月		0年6ヶ月		0年5ヶ月	1年3ヶ月	0年7ヶ月	1年0ヶ月
混合	1年1ヶ月		1年0ヶ月		0年10ヶ月	2年2ヶ月	0年9ヶ月	0年11ヶ月

入所希望者はそれほど待機せずに殆どの方が入所できていると回答された施設の平均待機期間は概ね1年以内である。

（４）「入所希望者は殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できている」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	24	12%	3	5%	6	18%	1	5%	9	24%	5	15%
従来型	4	5%	1	3%	1	8%	0	0%	1	6%	1	8%
ユニット型	19	22%	2	7%	4	25%	1	11%	8	47%	4	25%
混合	1	4%	0	0%	1	17%	0	0%	0	0%	0	0%

入所希望者は殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できていると回答された施設の地域別では、浜松市内及び浜松市外が比較的多い。また、施設種別ではユニット型が多い。

4. 特例入所の受入れの状況について

(1) 全体のまとめ

回答項目	施設数	比率
特例入所の実績がある。または、検討中のケースがある。	116	60%
特例入所の実績や検討中のケースはないが、必要に応じて検討する。	71	37%
特例入所の実績や検討中のケースはなく、取組についても消極的である。	6	3%
合計	193	100%

特例入所の実績がある、又は検討中のケースがある施設は116施設あり、全体の60%を占めている。

【東部地区】 特例入所

回答項目	施設数	比率
実績がある。または、検討中のケースがある。	36	55%
実績や検討中のケースはないが、必要に応じて検討する。	27	41%
実績や検討中のケースはなく、取組についても消極的である。	3	5%
合計	66	100%

【中部地区】 特例入所

回答項目	静岡市内		静岡市外	
	施設数	比率	施設数	比率
実績がある。または、検討中のケースがある。	22	65%	6	27%
実績や検討中のケースはないが、必要に応じて検討する。	11	32%	15	68%
実績や検討中のケースはなく、取組についても消極的である。	1	3%	0	0%
合計	34	100%	21	95%

【西部地区】 特例入所

回答項目	浜松市内		浜松市外	
	施設数	比率	施設数	比率
実績がある。または、検討中のケースがある。	28	74%	24	71%
実績や検討中のケースはないが、必要に応じて検討する。	10	26%	8	24%
実績や検討中のケースはなく、取組についても消極的である。	0	0%	2	6%
合計	38	100%	34	100%

（２）「特例入所の実績がある。または、検討中のケースがある」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	116	60%	36	55%	22	65%	6	27%	28	74%	24	71%
従来型	55	65%	19	59%	8	67%	3	25%	13	81%	12	92%
ユニット型	46	54%	13	48%	11	69%	2	22%	12	71%	8	50%
混合	15	63%	4	57%	3	50%	1	100%	3	60%	4	80%

（３）「特例入所の実績や検討中のケースはないが、必要に応じて検討する」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	71	37%	27	41%	11	32%	15	68%	10	26%	8	24%
従来型	26	31%	12	38%	3	25%	8	67%	3	19%	0	0%
ユニット型	36	42%	12	44%	5	31%	7	78%	5	29%	7	44%
混合	9	38%	3	43%	3	50%	0	0%	2	40%	1	20%

（４）特例入所の実績や検討中のケースはなく、取組についても消極的である」と回答された地域・施設種別の内訳。

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	6	3%	3	5%	1	3%	0	0%	0	0%	2	6%
従来型	3	4%	1	3%	1	8%	0	0%	0	0%	1	8%
ユニット型	3	4%	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
混合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

5. 特例入所に対する保険者の対応状況について

(1) 全体のまとめ

回答項目	施設数	比率
施設の特例入所の判断に対して、保険者の意見等は適切であると思う	142	73%
施設の特例入所の判断に対して、保険者の理解、協力が得られにくい	23	12%
合計	165	85%

※上記2つの選択肢の他に、「その他」の選択肢があるため、全回答施設数とは一致しない。

「その他」を選択され意見等の記述は下記に記載。

回答された施設の73%、約7割の施設が施設入所の判断に対して、保険者の意見等は適切であると思うと回答、12%の約1割の施設が保険者の理解、協力が得られにくいと回答された。また、中部地区では、その他の意見として回答された施設の割合が高かった。

【東部地区】 特例入所

回答項目	施設数	比率
保険者の意見等は適切であると思う	50	76%
保険者の理解、協力が得られにくい	10	15%
合計	60	91%

【中部地区】 特例入所

回答項目	静岡市内		静岡市外	
	施設数	比率	施設数	比率
保険者の意見等は適切であると思う	24	41%	9	41%
保険者の理解、協力が得られにくい	2	6%	4	18%
合計	26	47%	13	59%

【西部地区】 特例入所

回答項目	浜松市内		浜松市外	
	施設数	比率	施設数	比率
保険者の意見等は適切であると思う	33	87%	23	68%
保険者の理解、協力が得られにくい	1	3%	6	18%
合計	34	89%	29	85%

(2) 「施設の特例入所の判断に対して、保険者の意見等は適切であると思う」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	142	73%	50	76%	24	71%	9	41%	33	87%	23	68%
従来型	64	75%	25	78%	7	58%	6	50%	14	88%	9	69%
ユニット型	62	73%	19	70%	11	69%	3	33%	16	94%	10	63%
混合	21	89%	6	86%	6	100%	0	0%	3	60%	4	80%

(3) 「施設の特例入所の判断に対して、保険者の理解、協力が得られにくい」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	23	12%	10	15%	2	6%	4	18%	1	3%	6	18%
従来型	8	10%	2	6%	0	0%	1	8%	1	6%	4	31%
ユニット型	9	10%	2	7%	2	13%	3	33%	0	0%	1	6%
混合	8	33%	6	86%	0	0%	0	0%	0	0%	1	20%

(4) その他意見

- ・特例入所に関する書類の準備に時間がかかることや複数の申し込みをしていることを考えると、特例入所判断に関してスムーズにできればと思う。
- ・まだ特例入所の実績がないので、何とも言えません。又は意見を求めたことがない。
- ・まだ実績はないが、必要時には保険者から適切な意見等が得られると思っている。
- ・手続きの簡素化を望む（施設での入所判定基準表で良い等）
- ・保険者の判断は適切かと思うが、ベッドを空床にしておくよりも、社会資源として利用してもらったほうが良いのではないかと感じる時がある。
- ・市町村により差がある。
- ・同じ市であっても区によって特例入所の回数に差があるように思える。浜松市の場合、南区は高齢者世帯が特に多いような気がするため、急な入所は北区などへ紹介するケースもある。
- ・過剰に施設を建設し、特例入所の運用が緩和され過ぎているように感じます。
- ・サービス付き高齢者住宅での生活が不可能な理由を問われたが、金銭面は理由にならないとされた。支払い能力がない方は行き場がなくなるのではと感じた。
- ・最近問い合わせをしていないので保険者の対応は把握していない。
- ・初年度相談したケースでは協力が得られませんでした。それ以降対象者がいないのでわかりません。
- ・施設が特例入所の判断手続きに市町の意見を求める際、市町によって意見の表明に時間がかかったり、反する判断など対応に差があるように思います。
- ・保険者より問い合わせなく、書面での意見表明のみであった。
- ・これまで実績がないため保険者対応について把握していない。

6. 今後の待機者の推移について

今後待機者がどう推移していくと思うか伺った。

(1) 全体のまとめ

回答項目	施設数	比率
増加すると思う。	9	5%
現状維持でいくと思う。	38	19%
少しずつ少なくなっていくと思う。	114	59%
危機的な状況（事業継続困難）になっていくと思う。	36	18%
合計	161	83%

※回答された194施設の内、当項目の未回答が32施設あったため100%にはなっていない。

今後待機者は、少しずつ少なくなっていくと思うと回答された施設は115施設あり、全体の60%を占める。また、危機的な状況になっていくと思うと回答された施設は37施設あり、全体の19%であった。約8割の施設が今後待機者が少なくなると回答されている。

増加すると思うと回答された施設は9施設と5%と低く、浜松市外の回答はなかった。

【東部地区】 今後の待機者

回答項目	施設数	比率
増加すると思う。	4	6%
現状維持でいくと思う。	13	20%
少しずつ少なくなっていくと思う。	36	55%
危機的な状況（事業継続困難）になっていくと思う。	13	20%
合計	66	100%

【中部地区】 今後の待機者

回答項目	静岡市内		静岡市外	
	施設数	比率	施設数	比率
増加すると思う。	1	3%	1	5%
現状維持でいくと思う。	7	21%	3	14%
少しずつ少なくなっていくと思う。	19	56%	17	77%
危機的な状況（事業継続困難）になっていくと思う。	6	18%	1	5%
合計	33	97%	22	100%

【西部地区】 今後の待機者

回答項目	浜松市内		浜松市外	
	施設数	比率	施設数	比率
増加すると思う。	3	8%	0	0%
現状維持でいくと思う。	7	18%	7	21%
少しずつ少なくなっていくと思う。	22	58%	18	53%
危機的な状況（事業継続困難）になっていくと思う。	6	16%	9	26%
合計	38	100%	34	100%

(2) 今後待機者は「増加すると思う」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	9	5%	4	6%	1	3%	1	5%	3	8%	0	0%
従来型	6	7%	2	6%	1	8%	1	8%	2	13%	0	0%
ユニット型	3	4%	2	7%	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%
混合	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

(3) 今後待機者は「現状維持でいくと思う」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	38	19%	13	20%	7	21%	3	14%	7	18%	7	21%
従来型	26	31%	9	28%	4	33%	3	25%	5	31%	4	31%
ユニット型	11	13%	3	11%	3	19%	0	0%	2	12%	3	19%
混合	1	5%	1	14%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%

(4) 今後待機者は「少しずつ少なくなっていくと思う」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	114	59%	36	55%	19	56%	17	77%	22	58%	18	53%
従来型	43	50%	15	47%	4	33%	8	67%	7	44%	7	54%
ユニット型	55	64%	16	59%	10	63%	8	89%	10	59%	8	50%
混合	23	94%	5	71%	5	83%	1	100%	5	100%	3	60%

(5) 今後待機者は「危機的な状況（事業継続困難）になっていくと思う」と回答された地域・施設種別の内訳

	全体		東部		中部				西部			
					静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
全体	36	18%	13	20%	6	18%	1	5%	6	16%	9	26%
従来型	14	16%	6	19%	3	25%	0	0%	2	13%	2	15%
ユニット型	20	23%	6	22%	3	19%	1	11%	4	24%	5	31%
混合	3	13%	1	14%	0	0%	0	0%	0	0%	2	40%

7. 待機者の減少理由（複数回答可）

前記の「今後待機者に推移」に関する設問に対し、今後待機者が「少しずつ少なくなってくると思う」又は「危機的な状況になってくると思う」と回答された方の理由について伺った。

（１）全体のまとめ

回答項目	施設数	比率
入所対象が原則要介護３以上になったため。	116	41%
他の高齢者施設の整備が増えたため。	133	47%
利用者負担額が増えたため。	36	13%
合計	285	100%

※該当する項目の複数回答がある為、回答全施設の194施設とは一致しない。

今後待機者が少なくなる理由として、入所対象者が原則要介護3以上になったためと回答された施設が116施設、他の高齢者施設の整備が増えたためと回答された施設が133施設と多く、理由の約9割を占める。一方、利用者負担が増えたためと回答された施設は36施設あり、理由の約1割を占める。

（２）地区別

回答項目	東部		中部				西部			
			静岡市内		静岡市外		浜松市内		浜松市外	
入所対象が原則要介護３以上になったため。	35	38%	21	46%	13	41%	24	41%	21	41%
他の高齢者施設の整備が増えたため。	44	48%	22	48%	17	53%	25	43%	22	43%
利用者負担額が増えたため。	13	14%	3	7%	2	6%	9	16%	8	16%
合計	92	100%	46	100%	32	100%	58	100%	51	100%

(3) その他意見

- ・在宅サービス充実・高齢者の域外移転
- ・当施設には地域密着型特養ホームもあり、利用者負担の話をする、三島市にお住まいで保険者が三島市の方はそちらを希望されることが多い状況にあります。
- ・複数の施設を申し込んでいる人が多いため、年間の取り下げの数が多く、今後待機者が減っていくと思われるため、要介護1、2の方に関しての受け入れを積極的に考えていく必要があると思う。
- ・待機者がなくなる。
- ・終末期病棟化しており、入退所が激しくなっている。結果待機者減少につながっている。
- ・高齢者の絶対数が減少しているため
- ・年金受給者の年金水準が上がれば、有料老人ホームの利用が一層増えていくと考えます。
- ・特に住宅型有料老人ホームが増え、申し込み継続の案内も途絶えてしまう例が多い。
- ・入所を待てず、有料の施設等へ入所してしまったり、高齢化が進み亡くなられる方も多くなっていくと考えられる。
- ・在宅生活者で要介護3以上の方が少ない傾向
- ・人口の減少
- ・年金内の生活が難しくなっている
- ・選択肢が増えているため
- ・要支援1～要介護2の割合が多い。要介護1～2の区分変更時の状態が認知症悪化ならば対応できるが、医療行為の増加がみられた場合は受け入れが難しい。
- ・施設が増え、すぐに空いている他施設へ入所してしまうため、待機という状態がなくなっている。
- ・地域的に周辺市町村に人口が流出している。
- ・入所者の重症度が高くなり、死亡、転院が増えている。申込者は変わらないが、入所退所のサイクルが早くなっている。
- ・老健の特養化している施設がある為（何年も入所している人がいるし、いつまでも入所していても良いという施設がある。）
- ・地域の人口が減少している為（人口に対する高齢者比率は高くなっているが絶対数は減少していくと推定される。）
- ・行政サイドの施策方針の転換（地域包括ケア）

8. 特養待機・入所等に関する意見・要望

- ・特養への申し込みから入所にかかる流れの中で、入所判定会で提供する資料を事前に作成する場合、介護認定に関する開示資料が必要ですが、保険者の考えによっては、ご家族が請求しても開示していただけないことがあります。入所希望者の処遇を検討したり、第三者委員の方々への詳細な説明という目的のために、ご家族の開示請求を拒否されている保険者は、ご家族の請求に応じていただけるよう考え直してほしいと思います。
- ・長くお待ち頂いた方も、特に加点等はなく他の得点の高い新しい方のご案内しかできていない状態です。
- ・個室の利用料金が高く多床室に待機者が集中している。負担限度額の条件も厳しくなっているため、個室の方が支払いできていけるのか不安。
- ・人口減少、介護職員の不足について行政には深刻に受け止めてもらいたい。特養を増やす意味があるのか（市内に新設予定あり）、整備すべきは施設の新設ではなく、健全な運営だと思う。
- ・日常生活継続支援加算の算定要件を、新規入居者の割合から以前の入居者の割合に戻してほしい。
- ・入所してからの利用期間が短い。要介護3以上となり医療面も重くなったか。
- ・医療ニーズへの対応を進めている中で、吸引への対応は概ね可能な状況です。しかし経管栄養やインスリン等については看護職の人員と全体の業務との兼ね合いで、受け入れを保留とするケースもあります。
- ・長期の待機は利用者から見れば望ましいことではありません。今後は特養と他の高齢者施設あるいは在宅との間の利用の流動化が進むと思います。地域包括ケアの一つの選択肢として特養が存在するようになるのではと思います。老健施設が特養の領域に入り込み本来の役割から外れてきていないか。
- ・特例入所を積極的に受け入れたいが日常継続支援加算が算定できなくなったり、収入が減ってしまう。特例入所を受け入れた場合は日常継続支援加算にカウントしない等、改善策を検討していただくことを要望します。
- ・特例入所に対して、入所後再度検討したり、事務的な書類等を記入したりしなければならず、またそういう煩雑なことをする割りに受け入れた施設に何の特典もないのが少し不満です。
- ・市町により対応の違いがある。
- ・入所待機が原則要介護3以上になり、入所する方の介護度が高くなっていくと思われるなかで生活機能の状態をしっかりと見極め、自立支援、心身機能の維持がますます重要になると思います。
- ・国はユニット型施設を推進していたが介護度3以上の高齢者にとっては利点とはなりません。利用料の高いユニット型施設は、このままだと事業継続が難しくなります。ユニットのハード面を活かし在宅生活が厳しい介護2からの利用者の受入れをユニット型施設の特徴と認めてもらいたと思います。
- ・介護度3以上のハードルが高く、特例入所までには至らないが入所を強く望むケースが多くあるため入所基準の見直しをしていただきたい。

- ・申込はありますが、特養も増え待たずに入所出来るようになっている（空室のある特養もあると聞いています。）ため、待機者の数が十分に確保できない。入所順番がきてFAX・電話するとすでに他施設へ決まっていることが多い。
- ・保険者の財政事情により特別入所については差があるように感じます。
- ・要介護度3以上の方ではなく、特例入所で認めるなら以前のように要介護度1～5の方の入所をお願いしたい。
- ・「入所申込者評価基準」に示されている2－（2）「介護保険施設に入院又は入所している場合」の注意書きである「退所又は退院が予定されている場合は在宅に復帰したものと仮定して点数を付ける」と書いてあるが・「そろそろ次の次の施設を探して下さい。」と言われた。・「次の施設が決まり次第退所するように言われた。・「言葉の端々から出てってくれと言われている気がする。」といったように具体的な退所予定は決まっていないが退所するように言われており判断に迷うことがある。‘退所年月日が決まっていない場合には在宅復帰しているとみなさない’等具体的に示して欲しい。
- ・本年4月の報酬改定により、近隣の老健が（回転率を上げるため？）入所者を退所させて特養に入所せせようとする動きが顕著にみられる。この動きが今後の待機者数の推移にどのように影響を及ぼすのか不明。
- ・要介護3以上の方が入居対象となった影響か、H28.29年度の退居が例年より増加しています。（年間30人以上）在籍に日数も減少しています。更新により介護3から2になるケースもあり、対応におわれているのが実情です。入所対象が要介護3以上の影響は大きいと思います。
- ・要介護1・2の方でも入居が必要な方もいる為「特例入所」の判定を（2～3週間）早く判定して頂きたい。
- ・入居申込者はいるが、すぐの希望ではなかったり医療的に無理な方も多く、また今後は職員配置の関係で入所が進まない事も考えられる。
- ・特例入所できるのは実質は困難ケース、市町介入のあるケースで他はサービスを受けられない地域のみで、非該当にほとんどの為、市→施設はスムーズでも施設→市のケースでは難しい。施設の判断に任せると言うが、指導対象となりかねない為、市の判断を仰ぐこととなる。
- ・介護3以上の判定基準が厳しくなり、介3～5は本当に重度化している。そのため看取りも多くなり医療が必要な方も受けざるを得ない。そうしないと稼働率が低くなる一方となっている。介護負担が増え、介護職も離職し、悪循環になる。
- ・要介護1～2の申込者が、待機者と同数以上あり。入所を希望するニーズが（特例入所制度がありつつも）あると考える。
- ・ショートステイのある施設へ入所する傾向が強いため、ショートステイがない施設は入所待機場所の確保が難しく、スムーズに入所へつなげることができない。介護職員（特に夜勤ができる職員）の確保が難しい。要介護3以下でも在宅生活の継続が難しい方が多い。
- ・自宅で介護している方の中には要介護2以下であっても、家族の負担が大きく、施設サービスの利用を希望している方がいる。要介護2以下の方でも施設サービスを利用できるようにしてほしい。

・重介護の方からの優先入所になっていることもあり、基準以上に職員の手が必要。老人保健施設でも看取りまで入所できることもあり、申込みいただいても断られる方も増えている。

・多床室のため、男性が退所すると男性しか入所できない。特に男性が続けて退所された時になかなか入所するまでに時間がかかってしまう。

・とにかく人員が確保できなければ何もできない。

・他施設の待機情報が本当に実際どうなのか不明。

・ユニット型が増えたため、入所したくても金銭的に難しいケースが多くなった。負担限度額でも夫婦での収入で計算するなど、他に方法はないのか？老施協の方からも負担限度に関することでお声を上げていただけたら…。お金がない方は本人にお金がなく、従来型特養でも生活が難しくなっている方もいます。いずれは生活保護に頼るケースも多々あります。

・医療機関からの問い合わせが増え、以前にも増してスムーズな受け入れを求められていると感じます。入院期間が決まっている病院かたの相談は申込みから入居までのスピードが求められていると感じます。浜松市は施設整備が短期間で進んだため、入居者、職員の奪い合いが起きている状況であり、数年間はほとんど待機せずに入所という状況が考えられます。

・特養の入所要件を原則要介護度3以上とした段階で、設備や人員の整っていないGH等の入所要件を原則要介護3以下とするなど、役割分担を明確化すべきであったのではないかと考えます。実際に、中間浴や特浴設備のないGHで、寝たきりのご利用者をシャワー浴のみで対応している等の話を聞かれますと、身勝手な経営判断がご利用者の不利益につながっているのではないかと心配されます。

・入所対象者を要介護1～5にした方が良い。

・特養待機者の中には金銭的な事情により特養の多床室しか入所が厳しい方が多くいる。今後、ユニットしか認めないとなると、入所したくてもできない方が増えていくと思われます。

・介護度3以上が対象となり、待機者が減り危機感を覚える。団塊の世代の高齢化を視野に入れても増えるとも思えない。介護度3以上だとすでに病院、老健等を利用している人も多くいる。また、特養利用者の自己負担もジワジワ上がり、特養としての特徴が薄れている。

・特養ならではの「いつ空床ができるか判らない」という状況と、病院のように期限が決まっている状況とがミスマッチを起こして、利用者が特養にスムーズに入所にしにくいと思われる。

・従来型多床室への入所希望者が増加していると感じる。利用料等金銭的に医療ニーズの高い方の申し込みもあり、受け入れには職員の負担等も考えると責任の持てない部分もあり考えてしまう。

・特養だけではなく、入所ができる施設が増えている。また、老健の空床もある。地域より待機状態に大きな差がある。浜松市は施設が多すぎるのでは？

・整備した施設を残すことも大切だが、個々の施設が人員を確保して十分な介護力をつけていくことが必要です。

・施設利用者の重度化が進み、経管栄養の方も増えてきている。また、共生型サービスの推進もあり、障がい有する方の受け入れもあり、支援体制を維持していくのが難しくなっている。ご利用者の在籍日数も減少傾向にあり、入れ替わりも増え、それに対する業務負担の増加、柔軟な受け入れ体制が厳しくなっている。今回の報酬改定で全体的には+0.54%であるが、その大きな要因は加算によるものであった。当然のことながら加算取得に対するサービスの向上を図ることは重要であるが、基礎的な部分のプラス改定による介護職員の待遇の向上や運営や体制がしやすくなるような仕組みができると良い。

・入所対象が要介護3以上になり、療養型等の病院からの入所が増えている。重度の方が多く、入所から退所までの期間も短い方が多いことも退所者が増え、入所待機者が減ってしまう理由でもあります。これから利用者負担額も増えるため、ますます入所を希望する人が減ってくると思います。

・すぐ、あるいは半年以内の入所希望者でも実際声をかけると保留となるケースが多い。将来的には名簿に反映されなくなってしまうので外すことを提案すると躊躇される。ギリギリ限界まで在宅で生きたいとの気持ちからだと思うが、このままの対応でよいのか疑問を感じている。

・介護職員の確保が優先順位として高まっている。

・ユニット型特養の増加はニーズに合わせて実子すべき。社会経済の状況や低所得者人口増を踏まえ、従来型の重要性も見直すべき。

・新規オープンの施設につき働く人が集まらず、ユニットがオープンできずにおり、入所の希望があっても入所ができていない。特例入所の問い合わせ、介護者がいないから入所したいというケースがとて多く、介護度3以上でないと基本入所できないというのは限界があると思います。

・現在、特例入所の意見照会をすればほぼ該当と返事が来ている。施設としては、数十枚の書類作成の負担も大きく、保険者市町村の検討会の負担も大きいと思われる。意見照会の簡素化を望みます。

・各市町村による措置入所の実績及び判断にいたった根拠を知りたい。優先入所検討委員会で検討する虐待ケースと措置入所が連動しているのか？

・重症者、認知症で常に見守りが必要な方が増えている。職員が少ない中、現場の負担が大きくなっている。

・介護度3以上という要件、待機者が減っているという現状を考えると、今後、事業継続が困難になる事業所が増えると思います。

・利用者負担額の見直しにより、ユニット型個室の希望者が減り、多床室の希望者が増えている。老健や介護医療院等と競合する形となっている。特養の機能・役割が不明確になってしまっている。

・老健を始めとして、ほぼすべての入所施設が長期さらに看取りまで行っています。各入所サービスの特色はありません。

・特養、入所系施設の作り過ぎです。結果、施設間で潰し合い、職員が不足、空所もでき、危機的な状況の施設もあります。

・要介護1・2の待機者も入所対象としていただきたい（現場職員負担の増加のため）

待 機 ・ 入 所 状 況 調 査 票

基準日：平成30年6月30日

1. 施設の概要についてご記入下さい。

- ① 所在地 _____ 市・町
- ② 種 別 ☐従来型 ・ ☐ユニット型 ・ ☐混合
- ④ 平成30年6月末の平均要介護度 _____
- ⑤ 直近3ヶ月間（H30.4～6）の新規入所者の平均要介護度 _____
- ⑥ 直近3ヶ月間（H30.4～6）の平均稼働率 _____ %

※平均稼働率＝各月の稼働率合計÷3 ※各月の稼働率＝利用実績数÷（定員×月日数）

2. 昨年度1年間の入所者状況について、該当する番号に○を付けて下さい。

- ① 空き定員を満たすのに十分な待機者がいる。
- ② 空き定員を満たすだけの待機者は、概ね確保できている。
- ③ 空き定員に対して、待機者の数は不足気味である。
- ④ 空き定員に対して、待機者の数はまったく不足している。

3. 昨年度1年間の待機者状況について、該当する番号に○を付けて下さい。

なお、入所希望者の内、「すぐにでも入所したい」又は「6ヶ月以内には入所したい」方についてお伺いします。

- ① 入所希望者を長い期間待たせている状態である。
（最も長い待機期間： _____ 年以上）
- ② 入所希望者はそれほど待機せずに殆どの方が入所できている。
（昨年度入所された方の待機期間：平均 _____ 年 _____ ヶ月）
- ③ 入所希望者は殆ど待機せずにほぼ全員がすぐに入所できている。

4. 特例入所（介護度1、2の方）の受入の状況について、該当する番号に○を付けて下さい。

- ① 特例入所の実績がある。または、検討中のケースがある。
- ② 特例入所の実績や検討中のケースはないが、必要に応じて検討する。
- ③ 特例入所の実績や検討中のケースはなく、取組についても消極的である。

5. 特例入所に対する保険者の対応について、該当する番号に○を付けて下さい。

- ① 施設の特例入所の判断に対して、保険者の意見等は適切であると思う。
- ② 施設の特例入所の判断に対して、保険者の理解、協力が得られにくい。
- ③ その他

--

6. 今後待機者がどう推移していくと思いますか。該当する番号に○を付けて下さい。

- ① 増加すると思う。
- ② 現状維持でいくと思う。
- ③ 少しずつ少なくなっていくと思う。
- ④ 危機的な状況（事業継続困難）になっていくと思う。

7. (6で③・④を選んだ方のみお答え下さい。)

待機者が減っていくと考えられる理由は何だと思えますか？

該当する番号に○を付けて下さい（複数回答可）。

- ① 入所対象が原則要介護3以上になったため。
- ② 他の高齢者施設の整備が増えたため。
- ③ 利用者負担額が増えたため。
- ④ その他

--

8. 特養待機・入所等に関する意見・要望がありましたらご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

【送付先】 F A X : 0 5 4 - 6 5 3 - 2 3 1 2 (県老施協)